



学校教育目標

ここに学び ここで遊ぶ ここがふるさと上山の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamiyama/>

# かみやま



## 春はそこまで！

校長 佐藤 康晴

先週、いつもの様に昇降口で子どもたちを迎えていると、とても心配そうな顔をして私の所に駆け寄ってきた子どもがいました。「校長先生！大変だよ！！金魚の池の水が凍ってしまって、金魚さんが一匹もいなくなったよ！大丈夫かな？」職員室前の観察池の事です。その子どもは、自分事のように金魚の命を心配していました。その日は日本中が寒波の影響を受けていて、子どもたちが暮らすこの街も、氷点下にならぬまで気温が下がっていました。この後、何人もの子どもたちが、金魚を心配して、私の所へ話をしに来てくれました。子どもたちには、「大丈夫だよ！金魚も、寒さに負けないように動かないで、じっとして温かくなるのを待っているんだよ！心配してくれて、ありがとう」と声を掛けました。子どもたちは、少し安心したのか笑顔で校舎の中に入って行きました。私は、子どもたちの優しさに心の温かさをもらった気がして、心の中に小さな春が来たような気持ちになりました。

まだまだ寒い日が続いていますが、1月20日は大寒、2月3日は節分・豆まき、翌日の2月4日は立春です。暦の上では、間もなく春です。子どもたちが集う場所が、笑顔で溢れる場所になって欲しいと、切に思っています。

さて、2月3日の節分ですが、節分について調べてみますと、節分とは、季節の始まりの日で、「立春、立夏、立秋、立冬」の前日を示し、節分の字のごとく、季節を分ける意味もあるそうです。しかし、日本には、「春、夏、秋、冬」と4つの季節がありますが、節分と言えば、立春の前日を思い浮かべることが多いですね。それは、春の節分の「豆まき」が大いに由来しているようです。「豆まき」は、その昔、その年の幸せを願い宮中で行われていた災いを払う、「鬼払いの儀式」が庶民の暮らしの中に広まり、日本各地で、健康で幸せな暮らしが出来るようにと願い、今に至り根付いたようです。

私は、節分の頃になると、小さいときに読み聴かせてもらった「泣いた赤鬼」を思い出します。赤鬼と青鬼の友情と青鬼の優しさが子ども心に染み入って、今でも時折読み返す、大好きな絵本の一つになっています。

現代では、鬼と言えば「鬼滅の刃」が人気ですが、この物語も、生きとし生けるものを大切に思う心や行動、そして優しさが綴られているように思います。子どもたちだけでなく、大人にも人気がある理由が分かる気がします。

今だ、猛威を振るう感染症拡大の中、毎朝、健康に気をつけ笑顔で送り出してくださる保護者の皆様、子どもたちの安心安全を見守ってくださる地域の皆様、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

これからも、皆様のご支援とご協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。